

## とってもやさしい アポイ岳ジオパーク講座 【第10回】

## ジオサイトめぐり (見どころ) その7



昭和初期の等瀬院  
護摩堂を本堂として使用していた

### ■ 様似海岸エリア：【C5】等瀬院（護摩堂）

江戸時代、幕府によって東蝦夷地に初めて建てられた3つの寺（蝦夷三官寺）のうちの一つが、様似の等瀬院（1806年建立）です。

なぜ様似が建立の地に選ばれたかについては、天然の良港があり既に栄えていたため、海上交通の難所であつたえりも岬に近かったためなどの理由が考えられます。創世期の様似にあって、等瀬院は生活文化の中心としてとても重要な存在だったことでしょう。当時、等瀬院の勤行区域（管轄）は苦小牧の勇払からえりもまでと、非常に広大でした。明治維新の影響で一時廃寺の悲運に遭いましたが、1897年に再興、現在に至ります。

護摩堂は建立当時の面影を残し、今日まで様似の移り変わりを見守ってきました。

### ■ 幌満峡エリア：【A2】東邦オリビン工業

幌満のかんらん岩を探石販売する東邦オリビン工業株の採石場がこのジオサイト。その起こりは、幌満峡での電力開発と深い関係があります。

第2発電所の導水路（ダムから発電所へ水を導く水路トンネル）を掘っている最中、非常に硬い岩石にぶつかり工事は難航しますが、創業者の手塚信吉氏はその硬さに着目、利用を図るために同社を設立したのです。現在、かんらん岩は、重い・硬い・熱に強い・色がきれい・マグネシウムが多く含まれるといったその特長から、日本全国に向けて出荷され、さまざまな用途に用いられています。

この採石場では、通常なら絶対に見ることのできないダイナミックな山肌一面のかんらん岩を見る事ができるので、ジオ（地学）ファンにとってはよだれの出そうな、たまらない場所でもあります。



東邦オリビンの採石場は  
ジオ好きにはたまらないスポット

幌満のかんらん岩は日本全国でいろんなことに役立つ  
てあるって言つけど、どこで、  
どんなことに使われているの？  
まずは製鉄工場。鉄を作る  
ときに溶けた鉄に混ぜると、  
じやまな力スを取り除くこ  
とができるんだ。それから、鑄物の型  
(溶かした金属を入れて固める型) に  
もなつてるよ。

かんらんくんたちの会話

えつ、溶けた鉄に混ぜられ  
たり、溶かした金属を入れ  
られたりして、熱くないの？  
平気さ、ぼくらは熱にすご  
く強いんだもの。それに、  
とっても硬いから、車のブ  
レーキパッドの材料にも使われるよ。  
熱に強くて、とても硬いか。  
かんらんくんつてすごい。  
見直しちゃつたわ。  
どうだい、えつへん。おろ  
ろつ、ドデーン！

も重いっていうのも、かんらん岩の特  
長だったもんね。